

坂井市三国町におけるエゾゼミ *Auritibicen japonicus* (Kato) の採集記録

伊藤 勝幸

A record of *Auritibicen japonicus* (Kato) at Mikuni, Sakai City, Fukui Prefecture.

Katsuyuki ITO

(要旨) 2021年8月31日に坂井市三国町でエゾゼミ1♂を採集した。これは、本種の坂井市三国町における初記録となる。

キーワード：エゾゼミ，三国町

エゾゼミ *Auritibicen japonicus* (Kato) は全長59～66 mmの大型のセミである。体は黒色で赤褐色と黄褐色の斑紋があり、中胸背のW字状の横紋の上方と側縁部は白粉でおおわれる。本種は、国内では北海道・本州・四国・九州などに分布し、北海道や東北地方では平地に生息するが、本州中部以西では標高500～1,000mの山地帯に見られ、ブナやミズナラの林にも生息するもののマツ林やスギ・ヒノキ林に多い(宮武・加納, 1992; 林・税所, 2011)。

福井県内では、本種は古くは大野市内、池田町部子山に記録があり(福井縣博物学學會, 1938)、福井市足羽山、国見岳をはじめ、勝山市、大野市、越前町、越前市、南越前町などでも記録がある(長田, 1985)。比較的最近では、大野市南六呂師で記録されているが(岸本ほか, 1998)、坂井市三国町内における本種の採集記録はこれまでなかった。筆者は、坂井市三国町内でエゾゼミを採集したので坂井市三国町における初記録として下記の通り報告する。

エゾゼミ *Auritibicen japonicus* (Kato)

坂井市三国町三国東2丁目, 1♂, 31-VIII-2021, 伊藤勝幸採集・福井市自然史博物館保存 (FCMNH-JI 31401 図1, 2)

なお、筆者は2013年8月3日に大野市南六呂師でエゾゼミ1♂を採集しているため、合わせて報告する。大宮(2020)は鳴き声の音声分析により坂井市丸岡町上竹田で本種の生息を記録している。また、嶺南地方では高浜町青葉山で本種の生息が確認されている(梅村, 私信)。県内における本種の分布記録は依然多いとは言えず、今後も県内での生息状況の把握が必要である。

本稿の投稿にあたり、様々な便宜を図っていただいた福井市自然史博物館の梅村信哉氏に御礼申し上げる。

引用文献

- 福井縣博物学學會, 1938, 原色福井縣昆蟲圖譜. 福井縣博物学學會, 42+71PL.
林正美・税所康正, 2011, 日本産セミ科図鑑. 誠文堂新光社, 223p.
岸本修・窪田寛・佐々治寛之・松村俊幸, 1998, カメムシ目 HEMIPTERA. 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編, 福井県昆虫目録第2版, 福井県県民生活部自然保護課, 64-95.
宮武頼夫・加納康嗣, 1992, 検索入門 セミ・バッタ. 保育社, 215p.
大宮正太郎, 2020, 鳴き声の音声分析によって確認した福井県におけるエゾゼミ類3種の記録. *Ciconia*, (23), 49-51.
長田勝, 1985, セミ科 Cicadidae. 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編, 福井県昆虫目録, 福井県, 61-62.



図1. 坂井市三国町三国東2丁目で見つかったエゾゼミ (坂井市三国町三国東2丁目 2021-VIII-31 伊藤勝幸撮影)



図2. エゾゼミ (坂井市三国町三国東2丁目 2021-VIII-31 伊藤勝幸採集・梅村信哉氏撮影)
福井市自然史博物館保存FCMNH-JI31401